

行政視察 川 嶋 嘉 一 議員

日時：令和7年8月4日(月)～8月6日(水)

場所：北海道木古内町、北海道江差町

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野新都市BT～羽田空港第2ターミナル	バス	往	103.1				3,900	3,900
羽田空港～函館空港	飛行機	往	682.0			32,850		32,850
函館空港～函館駅前	バス	往	11.1				500	500
函館～木古内	鉄道	往	53.4	1,380				1,380
木古内～五稜郭	鉄道	往	37.8	1,080				1,080
五稜郭駅前～五稜郭	バス	往	3.2				280	280
五稜郭公園入口～中歌町	バス	往復	147.6				5,000	5,000
五稜郭～函館空港	バス	復	7.3				560	560
函館空港～羽田空港	飛行機	復	682.0			23,630		23,630
羽田空港第2ターミナル～佐野新都市BT	バス	復	103.1				3,900	3,900
計				2,460	0	56,480	10,240	73,080

宿泊料@16,500×2泊 33,000 円

交通費 73,080 円

(うち航空運賃 56,480 円)

計 106,080 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 亀田 昌久

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

令和8年3月31日

佐野市議会議長 菅原 達 様

令和みらい 行政視察報告

議員名 川嶋 嘉一

1, 期日：令和7年8月4日（月）～8月6日（水）（2泊3日）

2, 視察地及び視察事項

- (1) 北海道 木古内町 「移住・定住政策について」（8月4日）
- (2) 北海道 江差町 「歴史を生かすまちづくりについて」（8月5日）

3, 参加議員

川嶋嘉一、神宮次秀樹、菟原政夫

4, 視察報告

(1) 木古内町 「移住・定住政策について」

①木古内町の概要

- ・人口：3, 439人（令和6年1月現在）
- ・面積：221.86km²
- ・議員定数：10人
- ・議員報酬：17万円（月額）
- ・木古内町は北海道、渡島半島の南西部に位置し函館市から車で1時間のところにあります。北海道の中でも比較的温暖な地域ですが、道南の中では積雪が多い地域となっております。目の前には津軽海峡が広がり、町の大部分は山林が占めるなど自然豊かな町で、自然を活かして一次産業が行われています。2015年に北海道新幹線が開通し、北海道の最初の駅として木古内駅が誕生しました。1月には190年以上続く寒中みそぎ祭りが現在も行なわれています。

②視察内容

- ・木古内町では少子高齢化が進み、令和4年1月現在、高齢化率50.0%という状況でした。そのような中で、令和4年4月より移住定住支援として、マイホーム取得促進事業が実施されました。町民の定住や町外からの移住を促進することを目的として、新築住宅または中古住宅（敷地を含む）購入費に対して基本額100万円を補助するもので、新築する場合は土地100坪を無償譲渡する内容でした。更に新築住宅を町内業者と契約した場合200万円、子育て世代の子供一人に対して100万円、移住者に対して100万円、親族と同居した場合に100万円、また空き家バンク登録の空き家を購入した場合に50万円など補助金が加算されることが大きな特色

といえます。また、空き家リフォーム工事助成事業（町内にある空き家を住居のためリフォームする場合最高100万円補助金を交付）も進めており、他の事業と併用が可能との事でした。賃貸住宅に居住する世帯についても、40歳未満の世帯や子育て世帯に対して月額1万5千円（最高3年間）の補助を行っているとの事でした。令和4年～6年の3年間で41件の実績があり、町民23世帯、60名。町外からの移住者18世帯、25名の方が移住定住支援を利用されたとの内容でした。

（2）江差町「歴史を生かしたまちづくりについて」

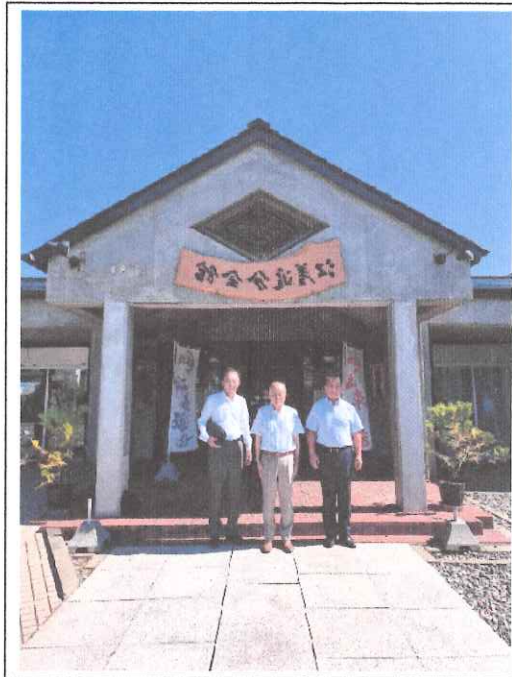
①江差町の概要

- ・人口：7,310人（令和7年4月現在）
- ・面積：109.48km²
- ・議員定数：12人
- ・議員報酬：17万6千円（月額）
- ・江差町は、北海道の渡島半島、北西に位置し、古くはニシン漁とその加工品の交易により栄え、北海道文化の発祥の地とも言われています。東西10km、南北17km。東部は山岳が多く山麓は丘陵になって海岸に迫っています。この沖500mに浮かぶ鷗島は自然の良港を形づくり、市街地はこの対岸に発達していて、北部は厚沢部川流域を中心に水田耕作地として発達しています。

②視察内容

江差町の「歴史を生かしたまちづくり」は、昭和63年、北海道の戦略プロジェクトのひとつとしてスタートし、平成元年に北海道で第1号の「歴史を生かす街並み整備モデル地区」として指定を受けました。同年「歴史を生かすまちづくり推進委員会」実施。以降ワークショップや協議会等を実施し協議を重ね、平成4年に「地区整備実施計画」を策定、平成8年に「ふるさと江差の街並み景観形成地区条例」が策定され街路事業が開始されました。長さ1060mの「いにしえ街道」を中心に街並み環境整備、電線類の地中化、建物修景、下水道事業などが進められ、平成16年10月末に総事業費約100億円（国からの補助金、約90億円、江差町負担、約10億円）の工事が完了しました。江戸時代からのメインストリートに商家や蔵、神社、古建築を活用した飲食店などが立ち並び、修景、復元された沢山の町指定歴史的景観形成建物等から、歴史の香りを感じました。

・木古内町、江差町にて



5、所感

木古内町の「移住・定住政策」、江差町の
「歴史を軸としたまちづくりについて」の視察を以て
子いりました。共に小豆の町ながら真剣な
取り組みが感じられました。
今後、本市の取り組みにいかしていこうと考えます。